

企業名：新東工業

レポート名：「統合報告書 2024」

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。統合報告書冒頭の「イントロダクション」では、「素材に形をいのちを」という理念のもと、創立 90 周年を機に企業価値の中長期的向上を目指す姿勢が示されている。特に「価値創造プロセス」や「中期経営計画」では、既存事業の深化に加え、EV・航空・鉄道といった成長分野への展開が明確に描かれている。また、これらの内容がストーリー性を意識して紹介されており、新東工業の将来像は一貫性をもって読み取れる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。報告書の「Section2 事業戦略」では、鑄造設備や表面処理装置をはじめとする製品群が強みとして位置付けられており、「3 つのつくり」「5 つの技術」「アフターサービス」「グローバル展開」など、複数の観点から競争優位性が説明されている。とりわけ、「表面処理事業のグローバル戦略」は見開きページで詳述されており、技術力と顧客対応力を両立させた競争力の高さが伝わる内容となっている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ある程度理解できる。報告書は「サステナビリティ戦略」や「人材戦略」を通じて、変化に対応する持続的な競争力の源泉を提示している。具体的には、DX 推進、脱炭素対応、新製品開発、人材育成などが構造的に支えとなっている。「マテリアリティ」の明示や「ESG データ集」による進捗の可視化も評価できる点である。ただし、グローバル市場における競合リスクやサプライチェーンの不安定性などに対する対応策については、記述が抽象的であり、今後さらに具体性を持たせる余地があると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

理解できる。統合報告書における「人材戦略」では、従業員を「価値創造の源泉」と位置づけ、自律的な挑戦を後押しする企業風土の構築を掲げている。具体的には、階層別・職種別の研修、グローバル人材育成、DX 教育などが紹介されており、人的資本の成長に資する制度が整っている。これらの取組みを通じて、企業内でのキャリア形成やスキルアップが見込めることから、人的資本の価値向上は十分に可能であると考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

本報告書の優れている点として、まず全体の構成が明快であることが挙げられる。「イントロダクション」から「価値創造モデル」「事業戦略」「サステナビリティ」までが論理的に整

理されており、非財務情報と財務情報が有機的につながっているため、企業の全体像を把握しやすい。また、定量データと定性情報がバランスよく掲載されており、トップメッセージや社員の声、実際の製品事例などが豊富に取り上げられていることも、読者の理解を助けている。さらに、人的資本や環境に対する企業姿勢が具体的に示されており、ステークホルダーに対する説明責任を果たそうとする意識が随所に見受けられる。

一方で、改善の余地もある。中期経営計画や成長戦略に関して、数値目標などの具体的な裏付けがやや不足しており、戦略の実行可能性を判断するには情報が十分とは言いがたい。また、グローバル市場における競争やリスクへの対応方針についての記述は限定的であり、より詳細な説明があれば一層説得力が増すだろう。